

高耐力梁受け金物

「TNシリーズ」12月末発売

既製品と同等の取扱いが可能

タツミ

タツミ（新潟県見附市、山口紳一郎社長）は、中大規模木造用の高耐力梁受け金物「TN（テックワン ネクスト）シリーズ」の販売を12月末から開始する。既製品より最大で2倍以上の耐力を持ちながら、施工や輸送の面でテックワンシリーズと同じように取り扱えるように設計された商品で、建築コストの圧縮やプレカット工場での施工性向上につながる。

これまで、大スパンで既製品の梁受け金物空間を飛ばす物件などで耐力が不足した場

合、サイズの大きな金物で対応したり、製作金物で特注したりする必要があった。このため、金物のコストが上昇するうえ、金物の大きさに合わせて横架材の断面寸法を大きくする必要があり、建築コストの上昇につながっていた。また、金物の出幅が大きくなるため

トラックに積みづらく、金物が現場施工となるケースもあった。TNシリーズは金物の出幅が最大103㎜、既製品の梁受け金物と同程度のため、テックワンシリーズと同じようなやり方でトラックに積み込める。横架材の幅も製作金物では

150㎜幅にする必要があったが、TNシリーズでは一般流通材の120㎜幅から使うことが可能。これにより、高耐力の金物をつけるために梁の幅を大きくする必要がなくなる。また、製作金物を使う場合、接合具はM16ボルトや直径16㎜のドリフトピンを使用する。これらの接合具は特注品扱いとなるうえ、通常の金物プレカットで加工する場合はドリル交換が必要となるので、手加工対応となる会社も少なくなかった。しかし、TNシリーズではテックワンシリーズでも使用される汎



既に実物件でも導入されている

用品のM12ボルトや直径12㎜のドリフトピンを使うので、プレカット工場は加工も施工も金物の準備も容易だ。さらに、製作金物ではボルトピッチが84㎜なのに対し、通常の建築金物は70㎜ピッチなので直交方向でボルト

同士がぶつかってしまうため、設計段階でボルト位置を調整する必要がある。TNシリーズは70㎜幅に合わせているので、直交方向でもボルト位置がぶつかることはない。

同社では第三者機関立ち会いの下で耐力試験を実施済み。技術資料については同社ホームページからダウンロード可能だ。TNシリーズは即納対応できる。現在は設計士にブレゼンを実施して提案しているほか、プレカット会社にもアナウンスを進めている。